

平成 30 年度 第 I 期収蔵品展

清川泰次 色と色のハーモニー

- 展覧会名 清川泰次 色と色のハーモニー
- 会 期 2018 年 4 月 3 日（火）～8 月 26 日（日）
- 休 館 日 毎週月曜日
ただし、4 月 30 日（月・振替休日）、7 月 16 日（月・祝）は開館、
5 月 1 日（火）、7 月 17 日（火）は休館
- 開館時間 10:00～18:00（最終入館は 17:30 まで）
- 観 覧 料 一般 200 円（160 円）
大高生 150 円（120 円）
65 歳以上・中小生 100 円（80 円）
※障害者の方は 100 円（80 円）、ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。
介助者（当該障害者 1 名につき 1 名）は無料
※（ ）内は 20 名以上の団体料金
※中小生は土日、祝休日、夏休み期間は無料
- バリアフリー情報
貸し出し用車椅子 1 台、車椅子専用トイレ完備、オストメイト設置

■ お問い合わせ

世田谷美術館分館

清川泰次記念ギャラリー

広報担当：小林由香

展覧会担当：樋口菜呂奈

〒157-0066 東京都世田谷区成城 2-22-17

tel: 03-3416-1202 fax: 03-3416-0209

e-mail: kiyokawa.taiji.annex@samuseum.gr.jp

<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>



《コーラルレッドの四角作品-62》1962 年

■ 展覧会概要

ものを写すことに捉われない、独自の抽象芸術を探求した画家・清川泰次（1919-2000）。

清川は、静岡県浜松市に生まれ、学生時代に独学で油絵を始めました。初期には具象的な作品を描き、二科展や読売アンデパンダン展などで活動していましたが、1950年代に約3年間の渡米を経験し、本格的に抽象表現へ移行します。その後、清川は、少しずつスタイルを変えながら、線と色面のみによる表現で作品を描き続けました。アメリカから帰国直後には、様々な色の線と面で構成された作品を多く描きますが、その後、1963年に再び渡米してからは、白を基調としたシンプルなスタイルへと変わっていきます。さらに、晩年の1990年代には、再び色彩豊かな作風となり、線、色、かたちによる美を追求しました。

本展では、清川の作品における「色」に着目しながら、初期から晩年までの作品10数点を展示します。約60年にわたり精力的に制作を続けた清川の、色彩の変遷をご覧ください。

■ 清川泰次について

静岡県浜松市生まれの画家・清川泰次（1919-2000）は、長らく世田谷区成城に在住した世田谷ゆかりの作家です。学生時代に独学で油絵を始めた清川は、1950年代と60年代に2度の渡米を経験し、もののかたちを写すことに捉われない、独自の抽象芸術を探求し続けました。線や色面のみで構成された絵画作品のほか、晩年には、ステンレスによる彫刻や、ハンカチ、ティーカップといった生活用品のデザインまで幅広く手がけています。

清川泰次記念ギャラリーは、清川泰次のアトリエ兼住居を一部改装したもので、2003年に世田谷美術館の分館として開館しました。清川泰次の作品を紹介するとともに、区民ギャラリーを併設し、区民の方々の創作活動を発表する場として、週単位でご利用いただいています。



■ 関連イベント

2018年5月19日（土）11:00～

担当学芸員によるギャラリートーク

本展のみどころについて解説いたします。

2018年7月28日（土）11:00～

担当学芸員によるスライドレクチャー

清川泰次とその作品について、スライドを使って解説いたします。

※いずれも参加費無料（観覧料別途）、事前申込不要

「清川泰次 色と色のハーモニー」展
広報用作品画像一覧

1. 作品画像データの使用

広報用作品画像をご希望の際は、広報担当までお問い合わせ下さい。

2. 掲載についての注意事項

- ・所定のクレジットの表記をお願いいたします。
- ・基本情報とクレジットの確認のため、広報担当まで e-mail もしくは fax にて校正のご送付をお願いいたします。
- ・掲載紙誌等は、記録用に1部、郵送にて弊館へご惠贈をお願いいたします。

①外観写真



②



③



④



⑤



⑥



●クレジット表記

- ① ©宮本和義
- ② 清川泰次《コーラルレッドの四角作品-62》1962年 世田谷美術館蔵
- ③ 清川泰次《プルシャンブルーの中に》1953-1954年 世田谷美術館蔵
- ④ 清川泰次《黄色の浮遊》1961-1963年 世田谷美術館蔵
- ⑤ 清川泰次《Painting No. 381-B》1981年 世田谷美術館蔵
- ⑥ 清川泰次《Painting No. 394》1994年 世田谷美術館蔵